

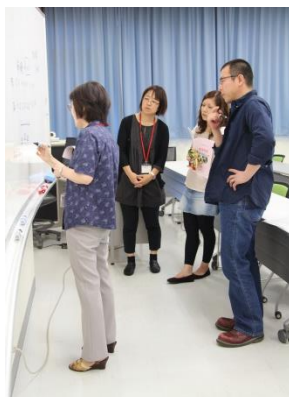
企画名：臨床で活かす看護研究～ケアの質の向上をめざして～
実施日：第1回 4月26日
講師：清水かおり 演習サポート：松下聖子 永田美和子
企画実施組織 主催：看護実践教育研究センター
企画実施報告 看護研究の基礎知識として、看護研究の意義、研究テーマの絞りこみや基本的な研究方法の量的研究、質的研究について講義した。また、文献検索の手順を具体的に講義をした後に、実際にインターネットを活用して文献検索の演習を行った。 参加者：68名
企画の実施評価 講義や演習を終えた後でも、参加者からはテーマの絞り込みや文献検索の方法について個別相談があり、担当教員は直接に指導を行った。
今後の取組み 第2.3回は量的研究、質的研究に分けての実施となる。



企画名	臨床で活かす看護研究～ケアの質の向上をめざして～
実施日	第2回 5月10日・第3回 5月24日
講師	松下聖子（質的研究）
演習サポート	比嘉憲枝・平上久美子・鬼頭和子・伊波弘幸・野崎希元
企画実施組織	
主催	看護実践教育研究センター
企画実施報告	
	<p>質的統合法（KJ法）について講義を行ったあと、4つのグループに分かれて実際に質的統合法（KJ法）を体験してもらった。カードは20枚作成し、サポート教員が進行役となり、ラベル集め・表札づくり、見取り図の作成を行った。ラベル集めでは、ディスカッションを繰り返しながら行った。表札づくりでは、苦労している様子がうかがえた。見取り図はサポート教員が主となって作成した。</p> <p>参加者 1回目：36名（院生4名・学生3名含む） 2回目：35名（学生2名含む）</p>
企画の実施評価	
	<p>受講生から概ね良い評価を得た。ラベル集め・表札づくりを繰り返していく中で、「これはどうなっていくのか知りたい」などの声が聞かれ、質的統合法（KJ法）楽しみながら体験していた。サポート教員からも「和気あいあいとした中でできて、楽しかった」等感想をいただいた。地域の看護職の方の研究への苦手意識が少し薄れたように感じた。</p> <p>詳細は別紙感想を参照</p>
今後の取組み	
	<p>受講生の数が多かったため、質と量に分けて実施したことはよかったと思う。研修会終了後の見取り図の作成を行っていたグループもあったので、次回は、講義を短縮して、演習の時間を確保する必要がある。</p>



企画名：臨床で活かす看護研究～ケアの質の向上をめざして～
実施日：第2回 5月10日・第3回 5月24日
講師：伊礼優（量的研究） 演習サポート：金城やす子・永田美和子・清水かおり・佐和田重信・鶴巻陽子・八田早恵子
企画実施組織 主催：看護実践教育研究センター
企画実施報告 平成26年5月10日（土）：参加者36名 平成26年5月24日（土）：参加者26名 土曜日開催にも関わらず、両日合わせて62名の出席者がおり、沖縄県北部地区以外にも、中南部の病院からの参加もあった。 講習会では、統計ソフトSPSSの立ち上げ方から始め、基本的な分析手法を実際に受講者に経験してもらった。これまでにSPSSに触れたことのない受講者が多いことを踏まえて、説明を加えながら、じっくりと時間をかけて分析の手順を進めていった。また、各受講者が不完全燃焼に陥らないように、一人ひとりが実際にSPSSを操作できるように実施した。
企画の実施評価 今回は2日間で総数62名が量的研究の講習会に参加していた。実際にSPSSを操作していただき、分析方法の理解を深めた。 参加者からのアンケートには、「実際に行ってみる事で、分かりやすくいい学びができました」「SPSSの使い方、入力仕方が解りやすく良かった。データの見方もくわしく教えて頂き楽しかったです」「こんな講義が受けられるとは思っていなかったのが本当に良かった」「統計分析手法を使って看護研究してみたいと思います」等のコメントが記載されていた。そのことより、講義内容は適切で興味をひく内容であったと評価している。また、「看護研究をしてみたい」とのコメントから、量的研究を用いて研究を行いたいという意欲を高めることが出来た。 臨床の看護師の研究意欲が高まるということは、患者へ提供される看護の質の向上に結びつくと考えられる。その面から、大学における地域貢献の役割を担えたと考えられる。
今後の取組み 今回のアンケートの内容を踏まえて、良い面は継続していく。また、来年開催する時には、事前に要望を聞き、より効果的な講習会を実施したいと考えている。



企画名 : 臨床で活かす看護研究～ケアの質の向上をめざして～
実施日 : 第4回 6月7日
担当講師 : 清水かおり・永田美和子・ サポート : 松下聖子・伊礼優
企画実施組織 主催 : 看護実践教育研究センター
企画実施報告 参加者 : 55名 第4回目の2部は「効果的なプレゼンテーションスキル」として、①プレゼンテーションの目的、②プレゼンテーションの達人、③パワーポイントの活用、④プレゼンテーションの実例、⑤学会発表の準備と実際について話した。プレゼンテーションは「人前で発表すること」、パブリック・コミュニケーションであり聞き手と十分にコミュニケーションが取れるようになることが大切である。また、プレゼンテーションの目的は、情報の提供、問題の分析、新たな提案であり、聴衆の時間をいただいているからには、目的を十分に果たせる内容であることが求められる。いわゆる「プレゼンテーションの達人」といわれる、スティーブ・ジョブズの聴衆を魅了するプレゼンテーションの7つのコツ、池上彰のわかりやすさの3つのルール、ガー・レイノルズの記憶に残るメッセージの6要素を紹介した。パワーポイントの活用では、プレゼンになっていない発表者が陥りやすいスライドについて、聴衆を魅了しないプレゼンとして例を挙げ実際に示した。パワーポイントによるプレゼンテーションの注意点は、具体性を持たせた（枚数が多すぎないか、字数が多すぎないか、読むことと聞くことは両立しない、字が小さすぎないか、会場が暗すぎないか、互換性はあるか（windows と Mac）、操作は大丈夫か）。プレゼンターの心構えとして、発表前の準備から発表当日の行動についても伝えた。発表に際する話し方や非言語・準言語要素として、心構え、服装、髪型、視線（アイコンタクト）、姿勢、声などにも配慮することを伝えた。最後に、パブリック・コミュニケーションとしてのプレゼンテーションとは、話をしている場が公の場であること、内容に公共性を持っていること、高い倫理性が要求される、そして話しては手を抜かず全力で準備をし、聞き手も神経を集中し、協働的態度で聴くことが肝要であるとして締めくくった。 倫理的配慮では研究者が守るべき倫理的配慮について歴史的背景を踏まえて講義した。また、研究計画書と倫理審査について実際に使用する申請用紙を提示しながら講義した。
企画の実施評価 実際に各施設で研究に着手している受講生が多く、講義終了後も多くの方から研究計画書の立案方法や文献検索の方法等について相談を受け、個別指導を行い効果的であった。
今後の取組み 講義は4回シリーズで6月に終了となる。実際の研究着手から考察の記載までの論文指導ができない状況である。次年度は前期、後期など2回開催するなど検討の必要がある。

